

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年7月13日

【四半期会計期間】 第10期第1四半期(自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)

【会社名】 株式会社ベルシステム24ホールディングス

【英訳名】 BELLSYSTEM24 HOLDINGS, INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役 社長執行役員CEO 野田 俊介

【本店の所在の場所】 東京都港区虎ノ門四丁目1番1号

【電話番号】 03-6843-0024(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 常務執行役員 辻 豊久

【最寄りの連絡場所】 東京都港区虎ノ門四丁目1番1号

【電話番号】 03-6843-0024(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 常務執行役員 辻 豊久

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第9期 第1四半期 連結累計期間	第10期 第1四半期 連結累計期間	第9期
会計期間		自 2022年3月1日 至 2022年5月31日	自 2023年3月1日 至 2023年5月31日	自 2022年3月1日 至 2023年2月28日
売上収益	(百万円)	39,244	39,370	156,054
営業利益	(百万円)	4,278	4,139	14,917
税引前四半期(当期)利益	(百万円)	4,047	4,088	14,157
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益	(百万円)	2,558	2,944	9,330
四半期(当期)包括利益	(百万円)	3,093	3,130	9,888
親会社の所有者に帰属する持分	(百万円)	59,805	64,521	64,224
資産合計	(百万円)	181,323	181,213	176,250
基本的1株当たり四半期(当期)利益	(円)	34.78	40.02	126.82
希薄化後1株当たり四半期(当期)利益	(円)	34.56	39.76	126.00
親会社所有者帰属持分比率	(%)	33.0	35.6	36.4
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	6,450	5,581	18,172
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	565	1,217	1,803
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	2,504	4,182	15,583
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	(百万円)	9,584	7,183	6,998

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 上記指標は、国際会計基準(IFRS)により作成した要約四半期連結財務諸表及び連結財務諸表に基づいております。
3. 百万円未満を四捨五入して表示しております。
4. 基本的1株当たり四半期(当期)利益及び希薄化後1株当たり四半期(当期)利益の算定において、役員報酬BIP信託が所有する当社株式を自己株式として処理していることから、基本的加重平均普通株式数から当該株式数を控除しております。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間における日本経済は、経済活動の正常化が進み、緩やかな景気回復の動きがみられました。一方で、世界的な金融引締めを始めとした金融資本市場の変動及び物価上昇の影響など、依然として先行き不透明な状況が続いております。また、雇用環境においては、新型コロナウイルス禍から社会経済活動が平常化に向かう中で企業の採用活動は活発化し、賃金相場は上昇基調となっております。

当社グループの主力事業であるCRM（Customer Relationship Management）事業においては、成熟期を迎えており、周辺領域への事業拡大が重要となっております。こうした市場環境の中、他社との差別化を図るために、顧客接点多様化に伴う対応領域の拡大とVOC（Voice Of Customer）などを駆使したデータ活用により、業務品質や付加価値の向上に努めるとともに、新たな事業領域開拓が求められております。

このような経営環境の下、当社グループは中期経営計画で掲げた「人材（総力4万人の最大活躍）」、「型化（データ活用の高度化）」及び「共創（NEW BPOの領域開拓）」の3つの重点施策を推進することで、持続的な成長の実現を目指してまいりました。

当第1四半期連結累計期間においては、長期勤続人材の採用及び定着を目的に、AI（人工知能）を活用した人材データ分析やアプリ開発事業等を展開する株式会社DUMSCOと当社内に蓄積するHR領域のデータを用いたAI予測モデルの活用と、採用基準・プロセスを組み合わせた「業務マッチング型採用モデル」を構築、全社活用を開始しました。これにより、応募者に最適かつ幅広い業務での活躍の場を提供するとともに、採用プロセスを効率化することで、採用後の研修などアフターフォローのさらなる充実を目指してまいります。

また、次世代型クレジットカードサービス「Nudge（ナッジ）」の提供などフィンテック事業を展開するナッジ株式会社とクレジットカード利用者及び提携先双方への新たな金融体験の提供を目指し、クレジットカード市場向けの新サービス提供に向けた業務提携契約に関する基本合意書を締結しました。本協業により、クレジットカード業界向けとして初となる提携クレジットカードが1枚からでも発行可能なカード発行システム基盤「Nudge」のOEM提供推進、UI/UX（ユーザーインターフェース/ユーザーエクスペリエンス）にこだわった、クレジットカード利用者向けのカスタマーサポートや提携クレジットカード発行先に向けた新たなサービスの開発などの検討を共同で進めてまいります。また訪日外国人対応への需要拡大が予想されるなか、コニカミノルタ株式会社が提供する多言語通訳システム「KOTOBAL」と提携し、「ヒト」と「AI」のハイブリッド型三者間多言語通訳サービスを提供開始しました。AIによる自動翻訳と、正確かつ丁寧なオペレーターによる通訳を利用者が選択できるサービスとなり、オペレーターのオンライン通訳の対応言語は、英語・中国語・韓国語・スペイン語をはじめとする13言語に対応可能となります。

海外事業においては、ベトナム国内12拠点にてコンタクトセンター事業を展開する「BellSystem24-Hoa Sao Joint Stock Company」への追加出資により子会社化し、それに伴い社名を「BELLSYSTEM24 VIETNAM Inc.」に変更しました。今後、ベトナム国内向けに通信・金融・Eコマースなどを成長産業と捉え注力するほか、ベトナム国内企業のDX支援により、高度なコンタクトセンター運営を行うとともに新たな市場の創出を目指してまいります。

ESG（環境・社会・ガバナンス）への取り組みとしては、2040年のカーボン・ニュートラル化に向けた取り組みの第一弾として、気候変動方針での中期目標の対象施設である自社コンタクトセンターの松江ソリューションセンターと神戸ソリューションセンターの2拠点及びデータセンターに再生可能エネルギーを導入しました。気候変動問題を経営の重要課題の一つとして捉え、事業活動を通じた環境負荷の低減と、持続可能な社会の実現に向け、「サステナブル・センター構想」を進めており、「ヒト」「エネルギー」「モノ」の3つの領域をテーマに、サステナブルな取り組みを推進してまいります。

各セグメントの業績は以下の通りであります。

#### (CRM事業)

スポット需要による売上が減少したものの前連結会計年度からの既存継続案件の売上が拡大した他、伊藤忠商事株式会社及び凸版印刷株式会社との協業強化によるシナジー案件も堅調に推移したこと等により、売上収益は前年同期比で増収となりました。利益面では、その他収益の増加等もあり、税引前四半期利益は前年同期比で増益となりました。

この結果、CRM事業の売上収益は391億98百万円(前年同期比0.5%増)、税引前四半期利益は40億45百万円(同1.5%増)となりました。

#### (その他)

コンテンツ販売収入が減少したため、その他のセグメントの売上収益は1億72百万円(前年同期比28.9%減)、税引前四半期利益は43百万円(同31.8%減)となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上収益は393億70百万円(前年同期比0.3%増)、税引前四半期利益は40億88百万円(同1.0%増)、親会社の所有者に帰属する四半期利益は29億44百万円(同15.1%増)となりました。

### (2) 財政状態の分析

#### 資産の分析

流動資産は、主に現金及び現金同等物が1億85百万円及び営業債権が1億19百万円増加しましたが、その他の短期金融資産が7億81百万円減少したため、前連結会計年度末より4億27百万円減少し、302億46百万円となりました。

非流動資産は、主に持分法で会計処理されている投資が6億55百万円減少しましたが、有形固定資産が28億35百万円、のれんが15億42百万円、無形資産が11億34百万円及びその他の長期金融資産が4億66百万円それぞれ増加したため、前連結会計年度末より53億90百万円増加し、1,509億67百万円となりました。

これらにより、資産合計は前連結会計年度末より49億63百万円増加し、1,812億13百万円となりました。

#### 負債の分析

流動負債は、主に未払法人所得税が16億39百万円及び営業債務が7億4百万円減少しましたが、その他の流動負債が18億13百万円、未払従業員給付が14億21百万円、その他の短期金融負債が11億98百万円及び借入金が8億円それぞれ増加したため、前連結会計年度末より28億89百万円増加し、491億27百万円となりました。

非流動負債は、主に長期借入金が7億44百万円減少しましたが、その他の長期金融負債が22億85百万円及び繰延税金負債が2億4百万円増加したため、前連結会計年度末より17億30百万円増加し、668億31百万円となりました。

これらにより、負債合計は前連結会計年度末より46億19百万円増加し、1,159億58百万円となりました。

#### 資本の分析

資本は、主に資本剰余金が27億76百万円減少しましたが、利益剰余金が29億44百万円増加したため、前連結会計年度末より3億44百万円増加し、652億55百万円となりました。

### (3) キャッシュ・フローの状況の分析

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、55億81百万円となりました(前年同期は64億50百万円の収入)。これは主に、税引前四半期利益が40億88百万円、減価償却費及び償却費が22億15百万円、未払消費税の増加が14億13百万円、法人所得税の支払額が26億79百万円、段階取得に係る差益が8億38百万円及び営業債務の減少が5億72百万円それぞれ生じたこと等によるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、12億17百万円となりました(前年同期は5億65百万円の支出)。これは主に、有形固定資産の取得による支出が6億22百万円及び有価証券の取得による支出が5億1百万円それぞれ生じたこと等によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、41億82百万円となりました(前年同期は25億4百万円の支出)。これは主に、短期借入れによる収入が8億円、配当金の支払額が24億39百万円、リース負債の返済による支出が18億6百万円及び長期借入金の返済による支出が7億50百万円それぞれ生じたこと等によるものであります。

これらの結果、現金及び現金同等物の当第1四半期連結会計期間末残高は、71億83百万円(前連結会計年度末比1億85百万円増加)となりました。

### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

### (5) 研究開発活動

該当事項はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	280,000,000
計	280,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (2023年5月31日)	提出日現在 発行数(株) (2023年7月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	73,715,734	73,715,734	東京証券取引所 プライム市場	株主として権利内容に制限のない、標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	73,715,734	73,715,734		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年5月31日		73,715,734		27,022		6,773

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年2月28日）に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【発行済株式】

2023年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等) (注)1	(自己保有株式) 普通株式 200		株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
完全議決権株式(その他) (注)2	普通株式 73,694,700	736,947	同上
単元未満株式 (注)3	普通株式 20,834		
発行済株式総数	73,715,734		
総株主の議決権		736,947	

(注)1. 「完全議決権株式(自己株式等)」欄の普通株式は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、「役員報酬B I P信託」が保有する当社株式153,800株(議決権の数1,538個)が含まれております。

3. 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式38株及び「役員報酬B I P信託」が保有する当社株式68株が含まれております。

## 【自己株式等】

2023年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ベルシステム24 ホールディングス(注)	東京都港区虎ノ門四丁目1 番1号	200		200	0.00
計		200		200	0.00

(注) 直前の基準日（2023年2月28日）に当社が保有する自己株式数は、単元未満株式の買取りによるものです。

なお、役員に対する株式報酬制度「役員報酬B I P信託」の信託財産として、日本マスタートラスト信託銀行株式会社が保有している当社株式153,868株(議決権の数1,538個)を、自己株式として処理しております。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」(以下、IAS第34号)に準拠して作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2023年3月1日から2023年5月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(2023年3月1日から2023年5月31日まで)に係る要約四半期連結財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1 【要約四半期連結財務諸表】

## (1) 【要約四半期連結財政状態計算書】

		(単位：百万円)	
	注記	前連結会計年度 2023年2月28日	当第1四半期連結会計期間 2023年5月31日
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物		6,998	7,183
営業債権		21,232	21,351
その他の短期金融資産		944	163
その他の流動資産		1,499	1,549
流動資産合計		30,673	30,246
非流動資産			
有形固定資産	4	37,007	39,842
のれん	4	94,900	96,442
無形資産	4	1,668	2,802
持分法で会計処理されている投資		2,181	1,526
繰延税金資産		2,985	3,017
その他の長期金融資産	7	6,509	6,975
その他の非流動資産		327	363
非流動資産合計		145,577	150,967
資産合計		176,250	181,213

(単位：百万円)

	注記	前連結会計年度 2023年2月28日	当第1四半期連結会計期間 2023年5月31日
<b>負債及び資本</b>			
<b>負債</b>			
<b>流動負債</b>			
営業債務		7,634	6,930
借入金	5,7	16,600	17,400
未払法人所得税		2,775	1,136
未払従業員給付		11,473	12,894
その他の短期金融負債		5,375	6,573
その他の流動負債		2,381	4,194
流動負債合計		46,238	49,127
<b>非流動負債</b>			
長期借入金	5,7	38,221	37,477
引当金		2,520	2,505
長期未払従業員給付		715	711
繰延税金負債			204
その他の長期金融負債	7	23,624	25,909
その他の非流動負債		21	25
非流動負債合計		65,101	66,831
負債合計		111,339	115,958
<b>資本</b>			
資本金		27,079	27,079
資本剰余金	6	1,268	1,508
その他の資本の構成要素		325	437
利益剰余金	6	35,837	38,781
自己株式		285	268
親会社の所有者に帰属する持分合計		64,224	64,521
非支配持分		687	734
資本合計		64,911	65,255
負債及び資本合計		176,250	181,213

## (2)【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

## 【要約四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

注記	(単位：百万円)		
	前第1四半期連結累計期間 自 2022年3月1日 至 2022年5月31日	当第1四半期連結累計期間 自 2023年3月1日 至 2023年5月31日	
売上収益	3	39,244	39,370
売上原価		30,850	31,875
売上総利益		8,394	7,495
販売費及び一般管理費		4,173	4,209
その他の収益		62	917
その他の費用		5	64
営業利益		4,278	4,139
持分法による投資損益	3	72	22
金融収益	3	1	39
金融費用	3	160	112
税引前四半期利益	3	4,047	4,088
法人所得税費用		1,410	1,063
四半期利益		2,637	3,025
四半期利益の帰属：			
親会社の所有者		2,558	2,944
非支配持分		79	81
四半期利益		2,637	3,025
			(単位：円)
1株当たり四半期利益	8		
基本的1株当たり四半期利益		34.78	40.02
希薄化後1株当たり四半期利益		34.56	39.76

## 【要約四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

注記	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 自 2022年3月1日 至 2022年5月31日	当第1四半期連結累計期間 自 2023年3月1日 至 2023年5月31日
四半期利益	2,637	3,025
その他の包括利益		
純損益に振り替えられない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産で生じた利得(損失)	352	1
持分法によるその他の包括利益	23	27
合計	329	28
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	5	121
持分法によるその他の包括利益	122	44
合計	127	77
その他の包括利益合計(税引後)	456	105
四半期包括利益	3,093	3,130
四半期包括利益の帰属：		
親会社の所有者	3,014	3,049
非支配持分	79	81
四半期包括利益	3,093	3,130

## (3) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第1四半期連結累計期間(自2022年3月1日至2022年5月31日)

(単位:百万円)

	注記	資本金	資本剰余金	その他の資本の 構成要素	利益剰余金
2022年3月1日現在		27,079	3,478	57	28,783
四半期利益					2,558
その他の包括利益				456	
四半期包括利益合計				456	2,558
株式報酬取引				3	
剰余金の配当	6				2,207
自己株式の処分			3		
非支配持分株主との取引					
所有者との取引等合計			3	3	2,207
2022年5月31日現在		27,079	3,475	402	29,134

	注記	自己株式	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配持分	資本合計
2022年3月1日現在		297	58,986	503	59,489
四半期利益			2,558	79	2,637
その他の包括利益			456		456
四半期包括利益合計			3,014	79	3,093
株式報酬取引			3		3
剰余金の配当	6		2,207	170	2,377
自己株式の処分		12	9		9
非支配持分株主との取引				98	98
所有者との取引等合計		12	2,195	72	2,267
2022年5月31日現在		285	59,805	510	60,315

当第1四半期連結累計期間(自2023年3月1日至2023年5月31日)

(単位:百万円)

	注記	資本金	資本剰余金	その他の資本の 構成要素	利益剰余金
2023年3月1日現在		27,079	1,268	325	35,837
四半期利益					2,944
その他の包括利益				105	
四半期包括利益合計				105	2,944
株式報酬取引				7	
剰余金の配当	6		2,207		
自己株式の処分			4		
企業結合による変動 非支配持分に係る売建プット・ オプション			565		
所有者との取引等合計			2,776	7	
2023年5月31日現在		27,079	1,508	437	38,781

	注記	自己株式	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配持分	資本合計
2023年3月1日現在		285	64,224	687	64,911
四半期利益			2,944	81	3,025
その他の包括利益			105		105
四半期包括利益合計			3,049	81	3,130
株式報酬取引			7		7
剰余金の配当	6		2,207	232	2,439
自己株式の処分		17	13		13
企業結合による変動 非支配持分に係る売建プット・ オプション			565	198	198
所有者との取引等合計		17	2,752	34	2,786
2023年5月31日現在		268	64,521	734	65,255

## (4) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

注記	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 自 2022年3月1日 至 2022年5月31日	当第1四半期連結累計期間 自 2023年3月1日 至 2023年5月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	4,047	4,088
営業活動によるキャッシュ・フローへの調整		
減価償却費及び償却費	2,109	2,215
段階取得に係る差損益(は益)		838
固定資産除売却損益(は益)		52
持分法による投資損益(は益)	72	22
金融収益	1	39
金融費用	160	112
営業債権の増減額(は増加)	381	383
営業債務の増減額(は減少)	406	572
未払消費税の増減額(は減少)	1,094	1,413
その他	1,296	1,526
小計	8,752	8,318
利息及び配当金の受取額	1	48
利息の支払額	123	106
法人所得税の支払額	2,180	2,679
営業活動からの正味キャッシュ・フロー	6,450	5,581
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	395	622
無形資産の取得による支出	139	198
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入		64
有価証券の取得による支出	52	501
敷金及び保証金の差入による支出	32	22
敷金及び保証金の回収による収入	17	81
資産除去債務の履行による支出		31
その他	36	12
投資活動からの正味キャッシュ・フロー	565	1,217
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(は減少)	2,100	800
長期借入金の返済による支出	734	750
配当金の支払額	2,207	2,207
非支配持分への配当金の支払額	170	232
非支配持分からの払込による収入	98	
リース負債の返済による支出	1,596	1,806
自己株式の売却による収入	5	13
財務活動からの正味キャッシュ・フロー	2,504	4,182
現金及び現金同等物に係る換算差額	7	3
現金及び現金同等物の正味増減額(は減少)	3,388	185
現金及び現金同等物の期首残高	6,196	6,998
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,584	7,183

## 【要約四半期連結財務諸表注記】

## 1. 報告企業

株式会社ベルシステム24ホールディングス（以下、「当社」と言う。）は日本に所在する企業であります。当社の2023年5月31日に終了した第1四半期の要約四半期連結財務諸表は、当社及び連結子会社（以下、「当社グループ」と言う。）並びに関連会社及び共同支配企業に対する持分により構成されております。当社グループは、CRM（Customer Relationship Management）ソリューションに関するアウトソーシングサービス、テクノロジーサービス及びコンサルティングサービスを主たる事業としております。

## 2. 作成の基礎

当社の要約四半期連結財務諸表は、IAS第34号に準拠して作成しております。当社は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件をすべて満たしているため、同第93条の規定を適用しております。

この要約四半期連結財務諸表は、年次連結財務諸表で要求されている全ての情報が含まれていないため、2023年2月28日に終了した前連結会計年度の当社の連結財務諸表と併せて利用されるべきものであります。

なお、要約四半期連結財務諸表は、2023年7月12日に当社取締役会にて承認されております。

## (1) 測定の基礎

当社の要約四半期連結財務諸表は、純損益を通じて公正価値で測定される金融商品、その他の包括利益を通じて公正価値で測定される金融商品を除き、取得原価を基礎として作成されております。

## (2) 機能通貨及び表示通貨

当社の要約四半期連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円を表示通貨としており、百万円未満を四捨五入して表示しております。

## (3) 重要な会計方針

当社グループが本要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、以下を除き、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

なお、当第1四半期連結累計期間の法人所得税費用は、見積平均年次実効税率を基に算定しております。

## (新たに適用する基準)

当社グループは、当第1四半期連結会計期間より、以下の基準を適用しております。

基準書	基準名	新設・改訂の概要
IAS第12号	法人所得税	単一の取引から生じた資産及び負債に係る繰延税金に関する会計処理の明確化

上記基準書の適用による要約四半期連結財務諸表に与える重要な影響はありません。

## (非支配持分株主に付与されたプット・オプション)

当社グループが非支配持分の所有者に対して付与した子会社株式の売建プット・オプションは、その行使価格の現在価値をその他の長期金融負債として認識するとともに、同額を資本剰余金から減額しております。

また、その事後的な変動額を資本剰余金として認識しております。



## 3. セグメント情報

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う事業セグメントを基礎に決定されております。なお、当社グループの事業セグメントは、CRM事業及びその他事業から構成されており、サービスの種類、性質、販売市場等から総合的に区分しております。

当社グループは、主にコンタクトセンター運営及びその付帯業務を取り扱うCRM事業で構成されております。

当社グループの収益、純損益の絶対額及び資産の金額のいずれにおいても、大部分が当該事業から構成されております。そのため、報告セグメントはCRM事業のみとしております。

セグメント間の振替価格は、概ね市場実勢価格に基づいて行っております。

報告セグメントの情報は、以下の通りであります。

前第1四半期連結累計期間（自2022年3月1日 至 2022年5月31日）

	CRM事業	その他	調整及び消去	(単位：百万円) 連結
売上収益				
外部収益	39,002	242		39,244
セグメント間収益（1）		79	79	
売上収益合計（2）	<u>39,002</u>	<u>321</u>	<u>79</u>	<u>39,244</u>
その他の損益				
減価償却費及び償却費	2,108	1		2,109
持分法による投資損益	72			72
金融収益	1			1
金融費用	160			160
報告セグメントの税引前四半期利益	<u>3,984</u>	<u>63</u>		<u>4,047</u>

（1）セグメント間収益は連結時に消去され、「調整及び消去」の欄に含まれております。

2．売上収益は、全て顧客との契約から認識した収益であります。

当第1四半期連結累計期間（自2023年3月1日 至 2023年5月31日）

	CRM事業	その他	調整及び消去	(単位：百万円) 連結
売上収益				
外部収益	39,198	172		39,370
セグメント間収益（1）		81	81	
売上収益合計（2）	<u>39,198</u>	<u>253</u>	<u>81</u>	<u>39,370</u>
その他の損益				
減価償却費及び償却費	2,214	1		2,215
持分法による投資損益	22			22
金融収益	39			39
金融費用	112			112
報告セグメントの税引前四半期利益	<u>4,045</u>	<u>43</u>		<u>4,088</u>

（1）セグメント間収益は連結時に消去され、「調整及び消去」の欄に含まれております。

2．売上収益は、全て顧客との契約から認識した収益であります。

## 4.有形固定資産、のれん及び無形資産

当第1四半期連結累計期間において、重要な有形固定資産、のれん及び無形資産の取得、処分、減損の兆候はありません。

## 5.借入金

前連結会計年度末及び当第1四半期連結会計期間末における借入金の内訳は、以下の通りであります。なお、長期借入金は償却原価で測定しております。

	利率	(単位：百万円) 前連結会計年度 2023年2月28日
借入金(流動)		
短期借入金	基準金利 + ( )	9,600
1年内返済予定の長期借入金	基準金利 + ( )	7,000
小計		16,600
借入金(非流動)		
長期借入金	基準金利 + ( )	38,221
合計		54,821

( ) スプレッド( )は0.09%~0.70%であります。

	利率	(単位：百万円) 当第1四半期連結会計期間 2023年5月31日
借入金(流動)		
短期借入金	基準金利 + ( )	10,400
1年内返済予定の長期借入金	基準金利 + ( )	7,000
小計		17,400
借入金(非流動)		
長期借入金	基準金利 + ( )	37,477
合計		54,877

( ) スプレッド( )は0.09%~0.70%であります。

## 借入枠

コミットメントライン契約に係る借入金未実行残高等

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 2023年2月28日	当第1四半期連結会計期間 2023年5月31日
融資限度額	15,000	15,000
借入実行残高	9,200	9,500
未実行残高	5,800	5,500

当座貸越契約に係る借入金未実行残高等

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 2023年2月28日	当第1四半期連結会計期間 2023年5月31日
融資限度額	7,500	7,500
借入実行残高	400	900
未実行残高	7,100	6,600

## 6. 配当金

各四半期連結累計期間における配当金は以下の通りであります。

## (1) 配当金支払額

前第1四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たりの配当額	基準日	効力発生日
2022年5月27日 定時株主総会	普通株式	2,211百万円	30円	2022年2月28日	2022年5月30日

(注) 役員報酬BIP信託が所有する当社株式に対する配当金5百万円が含まれております。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たりの配当額	基準日	効力発生日
2023年5月26日 定時株主総会	普通株式	2,211百万円	30円	2023年2月28日	2023年5月29日

(注) 役員報酬BIP信託が所有する当社株式に対する配当金5百万円が含まれております。なお、当該配当金の配当原資は、すべて資本剰余金であります。

## (2) 基準日が第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

前第1四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)

該当事項はありません。

## 7. 公正価値

## (1) 公正価値の見積りの前提及び方法

要約四半期連結財務諸表に計上されている当社グループが保有する金融資産及び金融負債の公正価値の見積りに係る前提及び方法は、以下の通りであります。

現金及び現金同等物、営業債権、その他の短期金融資産、営業債務、その他の短期金融負債及び短期借入金満期又は決済までの期間が短いため、要約四半期連結財政状態計算書計上額は公正価値と近似しております。

敷金及び保証金、預け金

償還時期を見積もり、安全性の高い長期債券の金利を使用した将来キャッシュ・フローの現在価値を公正価値としております。

1年内返済予定の長期借入金及び長期借入金

帳簿価額と公正価値がほぼ同額であるとみなされる変動金利付債務を除く1年内返済予定の長期借入金及び長期借入金は、同様の契約条項での市場金利を使用した将来のキャッシュ・フローの現在価値を公正価値としております。

有価証券

以下「(4)公正価値ヒエラルキーのレベル別分類」に記載しております。

長期未払金、非支配持分に係る売建プット・オプション

将来キャッシュ・フローの現在価値を公正価値としております。

## (2) 金融資産の内訳及び公正価値

金融資産の内訳及び公正価値は、以下の通りであります。

	(単位：百万円)			
	前連結会計年度 2023年2月28日		当第1四半期連結会計期間 2023年5月31日	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
償却原価で測定する金融資産				
非流動				
敷金及び保証金	5,676	5,633	5,647	5,605
預け金	89	89	92	92
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
非流動				
負債性金融商品( )	334	334	324	324
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産				
非流動				
資本性金融商品( )	410	410	912	912

( ) 純損益を通じて公正価値で測定する有価証券は、償却原価で測定する金融資産に分類されない負債性金融商品であります。また、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する有価証券は、資本性金融商品であります。当社グループは、投資先企業との取引関係の維持や強化等を目的として保有する資本性金融商品について、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産に指定しております。

## (3) 金融負債の内訳及び公正価値

金融負債の内訳及び公正価値は、以下の通りであります。当社グループにおいて、当初認識時に純損益を通じて公正価値で測定するものとして指定された金融負債はありません。

	(単位：百万円)			
	前連結会計年度 2023年2月28日		当第1四半期連結会計期間 2023年5月31日	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
償却原価で測定する金融負債				
流動				
1年内返済予定の長期借入金	7,000	7,000	7,000	7,000
非流動				
長期借入金	38,221	38,250	37,477	37,503
長期未払金			92	92
非支配持分に係る売建プット・オプション			565	565

## (4) 公正価値ヒエラルキーのレベル別分類

公正価値で測定する金融商品は、測定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、公正価値ヒエラルキーの3つのレベルに分類しております。当該分類において、公正価値ヒエラルキーは以下のように定義しております。

## レベル1

同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格

## レベル2

レベル1以外の直接又は間接的に観察可能なインプット

## レベル3

観察可能でないインプット

公正価値に複数のインプットを使用している場合には、その公正価値測定の全体において重要な最も低いレベルのインプットに基づいて公正価値のレベルを決定しております。また、公正価値ヒエラルキーのレベル間の振替は、各四半期の期首時点で発生したものと認識しております。なお、当社グループが非支配持分の所有者に対して付与した子会社株式の売建プット・オプションについては、レベル3に分類しており、以下に含めておりません。

## 資本性金融商品及び負債性金融商品

取引所に上場されている銘柄は、取引所における相場価格を公正価値に使用しております。このうち、取引が頻繁に行われている活発な市場での相場価格が入手できるものはレベル1に分類しております。取引所に上場していない銘柄は、当該投資先の将来の収益性の見通し及び対象銘柄における純資産価額、当該投資先が保有する主要資産の定量的情報等の外部より観察不能なインプット情報を総合的に考慮し、公正価値を測定した上で、レベル3に分類しております。

## 償却原価で測定する金融資産及び金融負債

重要なインプットが直接又は間接に観察可能である償却原価で測定する金融資産及び金融負債は、レベル2に分類しております。

経常的に公正価値で測定する金融商品に関するヒエラルキー別分類は、以下の通りであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度(2023年2月28日)			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
金融資産				
資本性金融商品	20		390	410
負債性金融商品			334	334

前連結会計年度においてレベル1、2及び3の間の振替はありません。

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間(2023年5月31日)			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
金融資産				
資本性金融商品	21		891	912
負債性金融商品			324	324

当第1四半期連結累計期間においてレベル1、2及び3の間の振替はありません。

各報告期間におけるレベル3に分類された金融商品の変動は、以下の通りであります。

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 自 2022年3月1日 至 2022年5月31日	当第1四半期連結累計期間 自 2023年3月1日 至 2023年5月31日
期首残高	1,438	724
純損益	15	10
その他の包括利益	505	
利得及び損失合計	490	10
購入	52	501
売却		
期末残高	1,980	1,215

純損益に認識した利得又は損失は、要約四半期連結損益計算書の「金融収益」又は「金融費用」に含めております。その他の包括利益に認識した利得及び損失のうち税効果考慮後の金額は、要約四半期連結包括利益計算書の「その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産で生じた利得（損失）」に含めております。

公正価値で測定されない金融商品に関するヒエラルキー別分類は、以下の通りであります。

なお、金融商品の帳簿価額が公正価値の合理的な近似値である場合、それら項目に関する情報は以下の表には含まれておりません。

(単位：百万円)

	前連結会計年度(2023年2月28日)			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
金融資産				
敷金及び保証金		5,633		5,633
金融負債				
長期借入金		45,250		45,250

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間(2023年5月31日)			合計
	レベル1	レベル2	レベル3	
金融資産				
敷金及び保証金		5,605		5,605
金融負債				
長期借入金		44,503		44,503

#### 評価技法とインプット

レベル2及びレベル3の公正価値測定に用いられる評価技法は主に割引キャッシュ・フロー法であり、重要なインプット又は重要な観察不能なインプットは主に割引率であります。

## 8. 1株当たり利益

基本的1株当たり四半期利益の金額は、親会社の普通株主に帰属する四半期利益を、当四半期連結累計期間における基本的加重平均発行済普通株式数で除して計算しております。

希薄化後1株当たり四半期利益の金額は、親会社の普通株主に帰属する四半期利益を、当四半期連結累計期間における基本的加重平均発行済普通株式数に、全ての希薄化効果を有する潜在的普通株式が普通株式へ転換された場合に発行されるであろう普通株式の加重平均値を加えたもので除して計算しております。

なお、基本的1株当たり四半期利益及び希薄化後1株当たり四半期利益の算定において、役員報酬BIP信託が所有する当社株式を自己株式として処理していることから、基本的加重平均普通株式数から当該株式数を控除しております。

基本的1株当たり四半期利益及び希薄化後1株当たり四半期利益の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前第1四半期連結累計期間 自 2022年3月1日 至 2022年5月31日	当第1四半期連結累計期間 自 2023年3月1日 至 2023年5月31日
		(百万円)
親会社の所有者に帰属する四半期利益	2,558	2,944
親会社の普通株主に帰属しない金額		
基本的1株当たり四半期利益の計算に用いられた 四半期利益	2,558	2,944
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に用いられた 四半期利益	2,558	2,944
		(株)
基本的加重平均普通株式数	73,556,991	73,563,020
希薄化性潜在的普通株式の影響		
ストック・オプションによる増加	432,277	434,707
役員報酬BIP信託による増加	38,109	45,888
希薄化効果調整後の加重平均普通株式数	74,027,377	74,043,615
	(円)	(円)
親会社の普通株主に帰属する1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益	34.78	40.02
希薄化後1株当たり四半期利益	34.56	39.76

## 9. 関連当事者取引

各四半期連結累計期間における関連当事者との取引の合計額及び関連する資産又は負債の残高は、以下の通りであります。

前第1四半期連結累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)

重要性がないため、記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年5月31日)

重要性がないため、記載を省略しております。

## 10. 偶発事象及び契約

該当事項はありません。

## 11. 企業結合

当第1四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年5月31日）

（Bellssystem24-Hoa Sao Joint Stock Companyの株式取得）

当社グループは、ベトナムにおけるCRM事業の拡大を目的に、2023年3月30日付でBellssystem24-Hoa Sao Joint Stock Companyの発行済株式31.0%を追加取得し、同社を連結子会社化いたしました。

## (1) 企業結合の概要

被取得企業の名称等（2023年2月28日現在）

商号	Bellssystem24-Hoa Sao Joint Stock Company
所在地	ベトナム ハノイ市
代表者の役職・氏名	会長 Pham My Linh
主な事業内容	CRM事業
資本金	10,000百万VND

企業結合の法的形式

現金を対価とする株式の取得

株式譲渡契約の相手先

Pham My Linh氏及び個人株主2名

株式譲渡契約締結日

2022年12月21日

企業結合後の名称

BELLSYSTEM24 VIETNAM Inc.

企業結合日

2023年3月30日

議決権比率

企業結合前の議決権比率 49.0%

追加取得した議決権比率 31.0%

企業結合後の議決権比率 80.0%

## (2) 取得関連費用

取得関連費用として40百万円を、要約四半期連結損益計算書上の「販売費及び一般管理費」に計上しております。

## (3) 段階取得に係る差益

取得日直前に保有していた被取得企業の持分を取得日における公正価値で再測定した結果、838百万円の段階取得に係る差益を認識しております。段階取得に係る差益は、要約四半期連結損益計算書上の「その他の収益」に計上しております。



## (4) 取得日における取得資産及び引受負債の公正価値

	(単位：百万円) 金額
支払対価の公正価値	876
取得日直前に保有していた持分の公正価値	1,384
合計	2,260
取得資産及び引受負債の公正価値	
現金及び現金同等物	64
営業債権	519
その他(流動資産)	14
有形固定資産	202
無形資産(2)	996
その他(非流動資産)	62
営業債務	239
未払従業員給付	209
その他(流動負債)	119
繰延税金負債	197
その他(非流動負債)	105
取得資産及び引受負債の公正価値(純額)	988
非支配持分(3)	198
のれん(4)	1,470
合計	2,260

- (1) 2023年5月31日現在において、取得日における識別可能な資産及び負債の特定および取得日に取得した資産及び引き受けた負債の公正価値評価が完了しておらず、現時点での最善の見積りによる暫定的な金額です。そのため、取得した資産及び引き受けた負債の金額および発生したのれんに対する取得対価の配分について、取得日時点で存在していた事実や状況に関する追加的な情報が得られた場合には、取得日から1年間は修正することがあります。
- (2) 識別可能な顧客関連資産983百万円が含まれております。
- (3) 非支配持分は、取得日における被取得企業の識別可能な純資産の公正価値に対する非支配持分割合で測定しております。
- (4) のれんは、主に、期待される将来の超過収益力の合理的な見積りにより発生したものです。当該のれんについて税務上、損金算入を見込んでいる金額はありません。

## (5) 取得した債権の公正価値、契約上の未収金額及び回収不能見込額

取得した営業債権及びその他の債権の公正価値は519百万円であります。契約上の未収金額は519百万円であり、回収不能と見込まれるものはありません。

## (6) 企業結合によるキャッシュ・フローへの影響

	(単位：百万円) 金額
現金による取得対価( )	876
取得時に被取得会社が保有していた現金及び現金同等物	64
子会社株式の取得による支出	812

- ( ) 取得対価の一部は、2023年2月28日に終了した前連結会計年度において、株式譲渡契約に定めるエスクロー口座へ拠出しております。

## (7) 業績に与える影響

当該企業結合に係る取得日以降の損益情報及び当該企業結合が期首に行われたと仮定した場合の損益情報は、要約四半期連結損益計算書に与える影響額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

## 12. 後発事象

当社は、長期借入金の借換（リファイナンス）を目的として、株式会社日本政策投資銀行との金銭消費貸借契約に基づき2023年6月30日付で借入を実施し、同日付で既存の金銭消費貸借契約に基づく借入金の弁済を行いました。

契約の相手先

株式会社日本政策投資銀行

借入金総額

4,000百万円

借入実行日

2023年6月30日

返済期限

2028年6月30日

金利

基準金利プラススプレッド

## 2 【その他】

該当事項はありません。

**第二部 【提出会社の保証会社等の情報】**

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年7月13日

株式会社ベルシステム24ホールディングス  
取締役会 御中

PwCあらた有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	新	田	將	貴
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	及	川	貴	裕

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ベルシステム24ホールディングスの2023年3月1日から2024年2月29日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2023年3月1日から2023年5月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年3月1日から2023年5月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び要約四半期連結財務諸表注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、株式会社ベルシステム24ホールディングス及び連結子会社の2023年5月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 要約四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1．上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。